

2021年

# 第16回 ソーシャルワーク研究所 シンポジウム

12/12日

オンライン開催  
13:00~

## 社会福祉制度の狭間に埋もれる人びとに ソーシャルワーク専門職が果たす役割 —命と権利と人権の擁護に向けてなすべき支援のあり方—

### ●プログラム

※敬称略。事情により変更となる場合があります。

開催趣旨と進行方法の説明 13:00~13:10

所 長：北川 清 一（ソーシャルワーク研究所所長、明治学院大学名誉教授）

総合司会：稗田里香（武蔵野大学教授、ソーシャルワーク研究所相談役）

第1部 【主 題 講 演】 13:10~14:15

講 師：久保美紀（明治学院大学教授、ソーシャルワーク研究所相談役）  
「制度の狭間に埋もれる人びとと対峙するソーシャルワーカーへの期待  
—利用者と誠実に向き合うための実践感覚とは—」

司会進行：川向雅弘（聖隷クリストファー大学教授、ソーシャルワーク研究所相談役）

第2部 【指 定 討 論】 14:25~16:00

〈 主題講演の問題提起から学びを深めるために 〉

発題者1：渡部律子（日本女子大学名誉教授、ソーシャルワーク研究所相談役）  
「高齢者支援におけるソーシャルワークアプローチとは  
—他職種連携の必要性と横たわる課題—」

発題者2：岡部 卓（明治大学教授）  
「顕在する生活困窮問題へのアウトリーチと他職種／多職種／他機関連携の課題  
—ソーシャルワークを駆使する相談機関への期待—」

発題者3：山縣文治（関西大学教授）  
「子ども虐待がもたらす生きにくさの連鎖をくい止める連携と協働の課題  
—社会福祉実践としての家族支援とソーシャルワーカーの役割—」

司会進行：稗田里香

第3部 【グループディスカッション】 16:10~17:15

〈 問題提起から学び得たものを振り返る 〉

「指定討論」発題者別に3つのグループに分かれ、ディスカッションを行います。所属グループは、参加申し込み時に希望を伺い（先着順）、事前に通知します。なお、申し込み状況によりご希望に沿えない場合があります。

[グループ1] 発題者：渡部律子 / オブザーバー（進行補助）：川向雅弘  
[グループ2] 発題者：岡部 卓 / オブザーバー（進行補助）：稗田里香  
[グループ3] 発題者：山縣文治 / オブザーバー（進行補助）：北川清一

閉会の挨拶（総括） 17:15~17:30

所 長：北川 清 一

## ●開催趣旨

人口減少が加速化し「縮小化する日本」へと突き進む私達の暮らしは、コロナ禍によってもたらされた混乱と相まって、激しく揺れ動き、安定性に欠ける状態が恒常化した感もある。さらに、国家財政は、世界の経済活動に深刻なダメージを与えかねない／市民の生活感覚では計り知れない額の債務を抱え、国家予算はすでに100兆円のレベルを超え、累積総額は1,200兆円にまで膨張したと報じられている。このような事態の中で、私達は持続可能な未来を展望することの難しさを感じている。

2000年に始まった「社会福祉基礎構造改革」に関する議論が分岐点となって、「権利としての社会福祉」が掲げる基本理念（哲学）は、介護保険をはじめとする社会福祉関連法の「見直し」過程で大きく変質した。それとともに、ソーシャルワーク専門職は、日常業務の中で「他職種／多職種／他機関」との「連携」「協働」が求められている。また、社会福祉制度の運用にあたり、為政者による「自助」「共助」「公助」のフレーズを使い分けての政策企図が浸透する中で「公助」の役割は大きく後退し、生存権保障と「国家責任」の関係性も一段と曖昧になった。基本的人権の尊重を基軸にシステム化された社会福祉の政策と実践は、社会における「福祉（安寧）」の総体とコミットするものでなく、市民一人ひとりの「福祉」と「国家責任」として保障する仕組みとして機能すべきことは自明である。しかし、社会制度に共通する宿命でもあるが、どのように新たな社会福祉サービスが制度化されても、拾いきれない／網の目からこぼれ落ちるが如き支援課題（demands）が存在し、放置されたままになりがちな実態を解消することの難しさがある。

わが国のソーシャルワーク専門職も、多様な領域で「当事者主体」の視点に立ち、利用者一人ひとりの「現実（実

態）」に寄り添い、困難な業務の遂行に努めてきた。それでもなお、ソーシャルワーク専門職を取り巻く実践環境の流動化が続く中で、社会福祉制度に内在するシステムと実践の「狭間」に置かれ続け、支援を必要とする状況が横たわっているにもかかわらず「手が届きづらい」実態は、一体どの程度まで克服できたのであろうか。現在、社会福祉分野の違いを超えて唱えられている「わが事、丸ごと」のスローガンと併せて「連携」「協働」の必要が強調される。しかし、その一連の取り組みは、困難な状況下にある人びとの「生活」の「活性化（treatment）」に向け、「事態の改革／改善」に繋がる提起となっていない点に憂慮すべきものを覚える。

いかなる専門職も、今や自ら職務とする「射程」に浮上している支援課題に単独で向き合うことは難しく、「他職種／多職種／他機関」との「連携」「協働」をいかに図るかは喫緊の課題となっている。しかし、ソーシャルワーク専門職による支援過程でどのような事態への対応に「行き詰まり」、その打開のため、どのような「連携」「協働」が構想され、新たな実践環境の構築を図ろうとしているのか、実際の取り組みのイメージは今なお判然としない。

そこで、第16回シンポジウムは、為政者が推進する社会福祉制度改革に貫かれている「コンセプト」を切り口（remind）とせず、ソーシャルワーク専門職が「目指してきた基本的視座（＝デモクラシーの発展への貢献）」を再確認しながら、社会福祉の多様な実践現場でいかなる「行き詰まり」があり、そのような事態の解消を図る上でどのような方略（strategy）が準備・計画され、日々の支援関係にいかなる変化（変革）を生み出せる可能性があるのかを検討してみたい。

●主 催 ソーシャルワーク研究所

●開催方法 オンライン（Zoom）で開催します。

●開催日時 2021年12月12日（日）13:00～17:30（受付開始12:30）

●参加費 3,500円

●参加対象 どなたでもご参加いただけます。

●募集定員 100名（申込み締切日は11月19日です。なお、定員になり次第締め切ります。）

## ●申込方法

- 1) 参加を希望される方は、研究所ホームページの申込みフォームに必要事項を入力し、送信してください。
- 2) 研究所の銀行口座【みずほ銀行高輪台支店（普）1100462、名義：ソーシャルワーク研究所】に、参加費をお振り込みください。誠に恐れ入りますが、振込手数料はご負担願います。  
なお、ご入金後の参加費は返金いたしかねますのでご了承願います。
- 3) 入金が確認できましたら、開催2週間前に資料集等の書類を郵送、開催2日前にZoomの招待メールを送信します。

## ●オンライン（Zoom）に関するお願い

- 1) ご自身でオンライン（Zoom）の環境を準備し、自宅等でご参加ください。タブレットやスマートフォンでも参加可能ですが、安定したインターネット回線に接続されたパソコンをご用意いただき、事前に、Zoomのアプリ（無料）をダウンロードの上、接続のテストを行うことを推奨します。また、周囲の雑音を軽減するため、イヤホン（イヤホンマイク）のご使用をお勧めします。なお、パソコン等の情報通信機器のトラブルや、Zoomの操作方法等のサポートには対応いたしかねますのでご了承願います。
- 2) 当日は、受付開始時間になりましたら、Zoomの招待メールに記載されているURLからご参加ください。その際、Zoom画面に表示される「名前」とシンポジウムの「申込者名」が一致しないと入室できませんのでご注意ください。
- 3) 基本的に、カメラは「ON」、マイクは「OFF」（ミュート）でご参加ください。なお、ご発言・ご質問の際には、マイクを「ON」にしてお話しいただきます。
- 4) スクリーンショット等による画像や動画の記録保存、二次利用はご遠慮願います。

## ●お申し込み・お問い合わせ先

ソーシャルワーク研究所  
〒272-0143 千葉県市川市相之川4-6-3-305  
Tel & Fax : 047-704-8007  
E-mail : swkenkyu@mail.meijigakuin.ac.jp

※お問い合わせはE-mailをご利用ください。

URL : <http://www.meijigakuin.ac.jp/~kitagawa/>